



龍乃通鑑 卷之三



八遠 13  
1719  
o



1719  
5

艶道通鑑卷之四

無常之忘目錄

- 一 定方死世の辰
- 二 室に遊女乃辰 附 歌基中納言の事
- 三 女郎花の辰
- 四 大江定基乃辰
- 五 求女塚の辰
- 六 忘塚乃辰
- 七 葵女の辰
- 八 虎侍茶れ辰 附 黄瀬川の龜鶴れ事



九 矢矯の淨瑠璃の辰

十 佐野舟橋の辰

十一 四季の辰

一

一 ぼろちち世に美愛しつらむらぐ。四年にそそみん  
 こそ同やとらぶさくは余りぞかろもむつと流牙が  
 好まふ事ぞし。天命とそわくそ何をさぶらんと書  
 うれそむとこいゆるまふねも有る。んごうき形は是  
 非なる。面影のうらそよの影合ふふらうらふ物さ  
 ばとよみ。さしきまいるさるるは安んずまうりけり  
 不祥星たつまそと。一日はあはらうとてうらまか  
 ぐらほらせうねん敷水さばとらまうらうとてまのほ  
 るやわん。西行大黒敷の丸頭中よんぬん分別夷根  
 ろるまらげけり。せざんちういかなうらまらけべ

あつこもどし。始末とどけふる。理よかきい道よそむり  
ど。ほぐれあがらうむ。

二

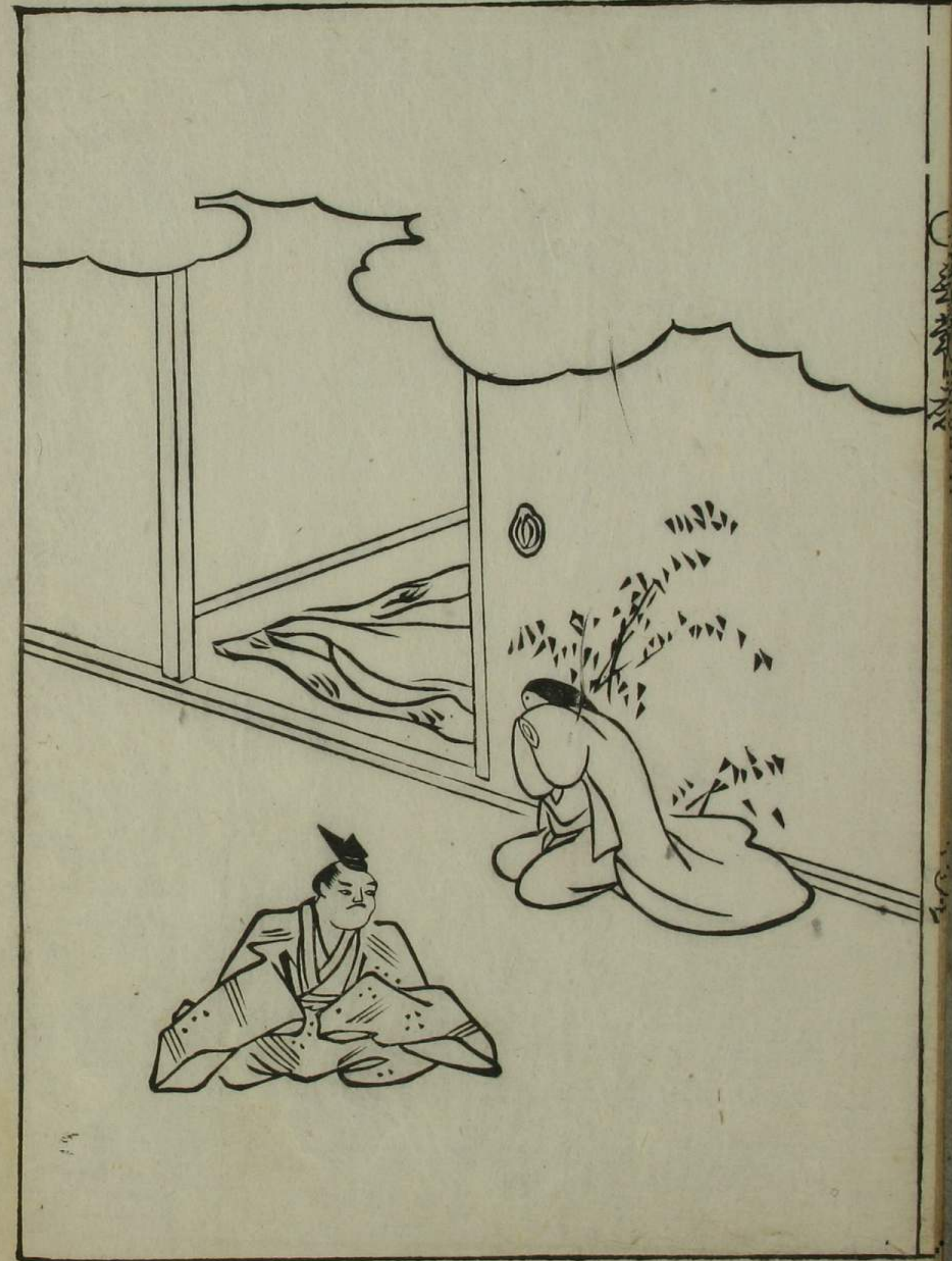
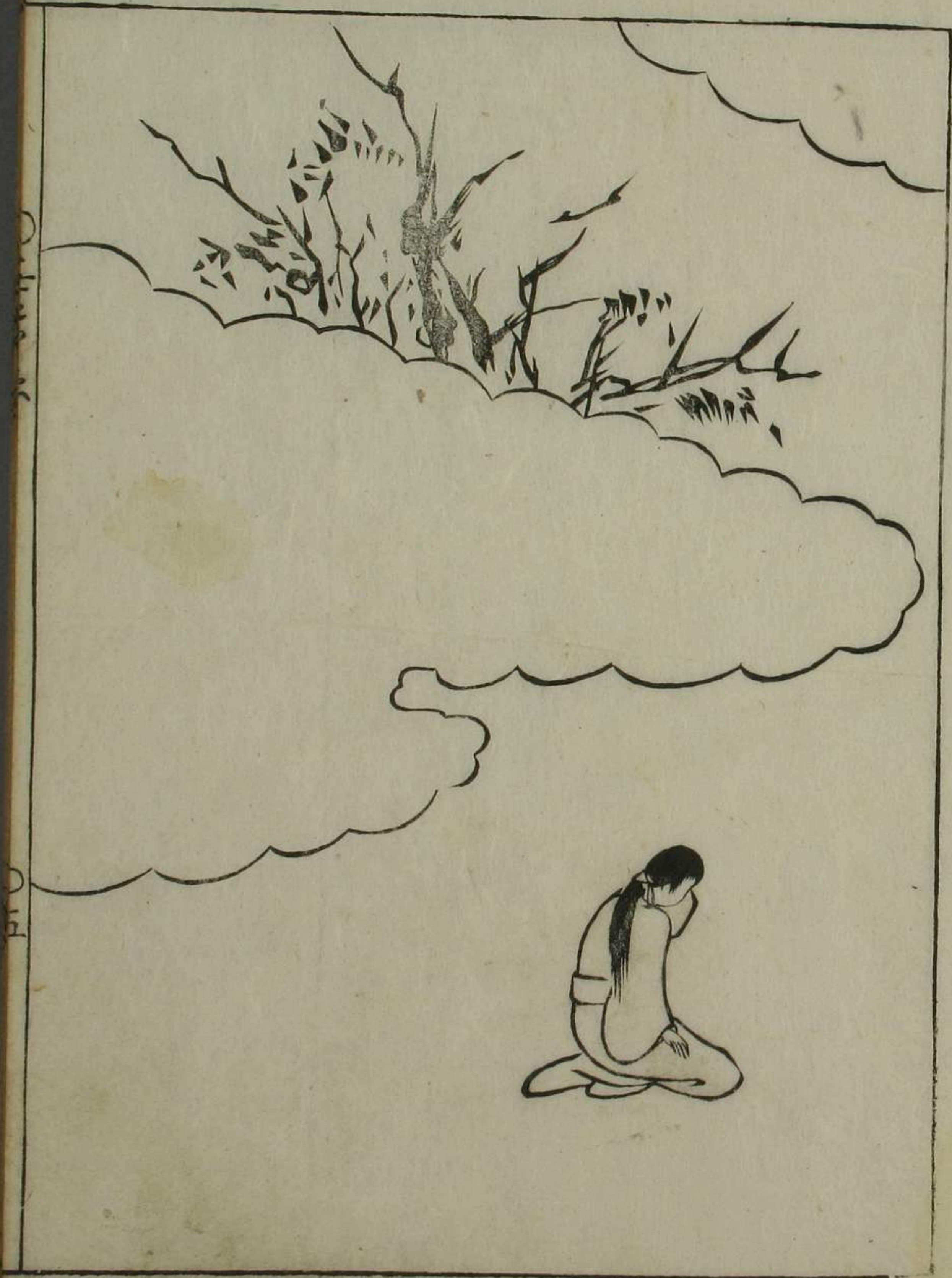
ひく播磨の園竹岡より西。産結ひひり尼あり。ん  
室れね女とぞ作りけらぐ。羨目とばなをも悪くしけ  
ふ。や。歌基中納言にあられきうて。よせの程都ふん後  
く。い。う。ち。ま。う。つ。う。ん。す。さ。う。つ。終。ま。う。て。室。の。う。ら。後  
又ね女のうらまひあじ作りけらうや。或中納言の心  
け人あたまて。西國より越へけらるん。いん。髪とて  
後。け。と。か。書。ら。う

は。赤。い。や。う。う。た。と。ん。ら。け。出。し。う。あ

わはとからとてし神々かろう勢

中書と。あ。か。げ。く。は。い。ん。と。い。う。て。は。あ。産。さ。う  
く。う。ら。い。と。あ。て。つ。り。け。ら。也。中。納。言。足。張。ん。あ。い。て。  
両。ま。つ。ん。と。は。い。ん。多。い。う。ら。う。結。ひ。ら。産。れ。う。づ。り  
今。の。鐘。と。曲。本。の。う。の。づ。や。た。と。の。ま。用。い。ら。う。ね。ら  
信。つ。か。ら。う。ん。ん。に。里。と。遠。た。れ。女。け。身。の。と。う。く  
て。あ。や。げ。め。は。く。ら。い。は。も。ち。根。を。ん。の。か。ま。ん。あ。せ。  
返。こ。う。に。同。女。ら。い。ら。う。さ。あ。の。あ。そ。び。の。か。ん。ん。  
人。よ。ま。あ。つ。終。ま。う。つ。か。た。が。ん。う。ら。い。の。ま。ま。あ。ら。ね  
か。げ。ら。う。物。を。い。う。す。う。ほ。せ。ん。事。よ。せ。う。ら。う。と。を。い。ん。











とんぱげた怖るる風情よるる人かぶく。そのひかりの  
 光る。女あはれの心移るるはこのまじりやとゆえなり。影る  
 光る。魂魄残るるを病れむ。草の葉まよるるれ  
 えど。ゆりそまどろから教員る貞といふ是るんや  
 評は曰。朱なうといふてなると。おひまどいをり  
 かり。又ていふやふまじりいを改むるも。夜君。今と  
 かあまらむ。神。お言。その葉乃。かあなぐ。ある世乃  
 なるい。其上。我白味。傍より。隣れ。櫻を。ほく。是ゆら  
 かり。はまゆへ。人の情。なる花。是。非。貴。度。方。任。米。い  
 うのま。儘。飽。と。る。誰。腹中。何。り。あ。り。下。り。論。

言葉は。遠い花の香。道い何と申。いつと鼻はほく  
 へ。は。物。は。あ。き。き。雄。徳。は。流。入。女。あ。は。れ。り。と。は  
 り。と。い。は。れ。と。

四

定。筆。は。い。い。江。家。の。文。流。と。情。ま。大。才。い。世。の。ま。り  
 と。ら。う。筆。鳥。の。向。い。詩。を。ゆ。い。れ。ば。楽。天。李。白。が。醉。狂  
 を。悔。ま。也。風。月。小。り。て。秋。孤。海。と。い。は。人。磨。赤。人。の。塵。眠  
 ぬ。あ。そ。く。心。人。熱。あ。き。ま。で。す。あ。わ。け。て。老。若。馴。て。い。難  
 り。事。と。う。れ。い。と。ら。り。ち。佛。の。な。め。う。と。あ。り。て。經。よ。え  
 佛。名。私。唱。う。け。孝。行。て。正。月。乃。花。も。清。慶。の。目。物。あ。の。い  
 事。う。り。い。い。と。我。お。ひ。れ。百。姓。と。い。へ。佛。は。東。海。に。寄。と

うへり。まの始より世々とてさうく蝶々をさでうらう。今の世。  
國よりのまはりに河万葉の是也。さうれども色いふ乃亦うら。  
今もそとさうりか毒とゆゑて。都よりうらりさうれとぬ  
して。目とさうくおわう。名作よかてつぎ。酒よとて眼尻と  
さうり。教をかかめく片時とさうらるれと。周は花び  
けさうれは翼。國よとてさうらるれと。同穴のわさひ起くわら  
間がさあて。夜つ時ぐはく中。他をさうとて是うん。  
業を金入。壁の崩れてもさうらるれ。今程の麻の少ひて  
目よ立物。目よこれ自壊さるもの。世同うらも其苦と  
わらう。うけならはさうらとてさうら。ばのぐんをさうら持を

はる人かとうとてさうら。あれが。おまを地うら。おまはしてさう  
わらう。終極より倍らしてさうら。其身よめく。其ま  
を同ぐ。好どさうら。後さうら。お病乃と。は。志をさうらて。  
雪のよれお。いさ。悪か。さうら。そのぞ。お別離。若會  
者定難。誰とて。さうら。おわら。て。安樂乃。提の。お。さ。か。く  
け。ま。ら。く。れ。ね。ら。り。お。ら。く。め。て。お。ま。く。に。お。や。せ。と。ら。い  
さ。ら。そ。何。の。う。ら。ひ。く。ら。さ。ら。ぬ。が。誰。治。の。病。を。お。ま。ら  
く。明。ら。り。起。う。ら。と。て。さうら。め。わ。標。の。ま。ぬ。う。ら。つ。れ。お。ま。お  
お。を。風。後。り。れ。さ。い。ほ。お。ま。さ。く。さ。け。づ。お。ま。お。さ。う。の  
お。う。さ。ら。ら。お。物。さ。う。わ。ま。り。つ。れ。ら。切。ら。ら。ん。よ。う。て。お。ま



乃不ゆるはるぐらと。身にあら悪事と人のそふいむと  
さうで。おひまのあづらば。いとこをたづむ。我とさう  
ざり悪人也。うの我とさうぬ悪人が。人おるやとさう。保  
とるはあやじ。操目切く。無うて飯喰べ人ぞと。  
我をさる慢う。恥をさるぬ悪人といぬぬ。自はくさく  
他よりさうは。仲の教。こ省の智人のさうぞと。定基  
乃。悪のさうれ。うらうらうら。他れやめをさうを物乃  
恥をさう。終を悔ひの強より。若國を細く名のやせれ  
あつし。ああん人らみくさうらへん

五

家よけの園乃片里に。あの配とる。百村あり。一村よとさされ

隣あつりにあつて。まのうさした人あつたり。何喰やのみだ  
客をさる。若も今も。唐も大和も。そのれをさうぶらうて。人  
を下に事よ。い人ぶらうつと。一飯とさけても。思ふはう。余情  
とぬともの。い。うらうら。て。か。け。さ。れ。と。い。や。ぬ。も。の。也。  
あつらふはま婦の。西。む。ら。て。居。つ。ふ。ほ。え。い。ん。ば。ん。そ。ら。と。  
君子はま。うらうら。妙さうと。う。て。若く。少人の。あ。は。げ。の。酔。て  
り。是。て。も。う。ら。ぬ。あ。い。さ。う。田。舎。一。稀。る。今。賢。人。ぬ。さ。う。り  
お。始。ま。人。む。さ。う。う。か。柔。和。の。婦。ま。合。り。お。け。さ。れ。い。天。性。の  
お。賢。か。さ。う。で。豎。う。ば。お。を。始。り。て。ぬ。ら。だ。う。の。と。教。を。さ。う  
あ。づ。ら。ま。で。欠。ら。り。さ。れ。と。う。れ。の。始。由。れ。げ。乃。賢。を。さ。う。





後て因果とせむ。又この世の報と。とて造化との多岐なるは。  
俣とあつた。因果あり因果ありとせむ。因果ありとせむ。  
はていのふかり

六

凡恩のありあつたもの。義はたとて。後て道に出入り情乃  
ありあつた者。後のたより。出入り情。その情とて。い  
けらるる。春らり重き命と。鴻毛より。恒く持する事。大なる  
てかりまき。いふわげ。を感ず。執く。あつた。其感と。子の足  
えざら。まじ事。まじ事。春ら。孤百合。かけあつた。もの也。うの  
後の事。さふく。とて。一番心の命。鴻毛より。うのた。持安  
かり也。また。うの世。うの誤り。恩のま。うの情。うの。うの。

給分とて。授け。まじ事。其恩の世。人。まじ事。うの。  
後て。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
の。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
列女。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
の。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
か。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
若。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。  
うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。うの。

乃ほちのつとぐり。と終より中終ちゆうしゆうにけ姫のつひひがま  
 かけたる物ぞ。ちうふ原の波も氏うぢよりのみせ。世のちをたて  
 かく。仁にんあわうて礼義れいぎ申まをけまじ。衣川えがわに月つき入いていけの年としに  
 ざわろ。笠かさ衣えの物ものやりろ。あは生なま得とくほぐゆる。ちる氣きじ。  
 いつとなく和わして。後ごよ実みをかたねたじ。二人の同どうは光ひかりの毛けと入いる  
 同どうもまじつた。か契せきといまご。昔むかしを若わかれ別わかれとさひ。且かつ  
 又またちうまきぬ。の。姨あひだをかいらひらふ。けつら返かへりてたじ。  
 己おのれが血ち氣きはゆを。姨あひだをさうとらへてみと御おんさぬ。命いのちとまへん。と  
 めんとつ。姨あひだうけくさ南なん丹たんとのづらる。娘むすめちうせて免とくも角かくも  
 けつらんとといらふ。まじれはるぬねをせつとじ。ありし赤あか丹たんと娘











けしきよきまゝに。さうして。胸よわし。情中けしきよきまゝに。さうして。胸よわし。情中けしきよきまゝに。さうして。胸よわし。情中

後妃女侍内侍令婦。千とぬくかざんかざんを

林情のまの何よ。ゆまのうけりごと。妙司あかきと敵

ふあさむまをいんいん。強きに情ごと。わづらひごさう。

又美が強をいんさういん。強きに情ごと。わづらひごさう。

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕

こみかめものぞ

八 祐成と流内まが事い。曾我物語以来。近世奇新妓浄

猶憶よ。あをうけりまや。伊文又言不實の中。に。実ありて

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕

こみかめものぞ

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕

こみかめものぞ

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕

こみかめものぞ

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕

こみかめものぞ

わすれいん令とど。そんぶらうさう。ゆまのまよ。世にひと仕





とて。今、錢でも貳百の札をぬ男づつ。野山の働らふ足らぬほど  
て。富士の雪とほちとくくづる。肝臓の夏冬とくくど。種物飯  
青葉松喰ゆへ。魚いりも本職をけりて。紅葉の照とみど。肌  
の禰の本目わけて。とくさうりて。後子れ特鼻禪。  
それさも。あゝ越中や。いひ。土百子に。ね。治布とさう。は。まん  
いんして。次布ねとさ。有さう。鯨の子れ。な。や。同の。い。は。く。  
取やう。突とて。あゝ人の。管つ。は。ぬ。風。信。の。さ。う。人。よ。尋。れ。は。  
江北の金柑。い。ひ。も。さ。う。も。事。も。所。さ。よ。後。子。と。は。り。わ。  
さ。だ。碑。文。も。し。ら。い。わ。り。い。れ。い。と。百。五。十。字。一。助。う。う。方。を。ま。り。  
十。五。う。う。百。五。十。字。も。だ。ん。事。令。也。と。し。し。は。清。は。書。は。い。よ

間とね。村中の。手。突。く。西。の。者。い。後。唐。路。り。舎。利。塔。の。お  
く。さ。い。野。で。す。て。め。さ。る。元。は。い。ひ。れ。馬。の。足。や。づ。と。さ。さ。る。い。ぬ。ど  
人。を。踏。ま。い。生。か。は。し。ま。り。を。る。乃。大。豆。島。と。わ。り。せ。も。不。祥。の  
徳。う。う。な。は。指。も。曲。て。は。し。也。も。年。雜。法。で。す。あ。ぬ。家。小。は。は  
利。と。い。ふ。の。作。中。の。つ。と。さ。さ。る。も。本。家。さ。う。い。ふ。う。う。う。有。業  
と。い。ふ。も。里。さ。れ。ど。と。れ。さ。う。が。女。の。さ。う。な。り。も。り。中。う。は。治。布  
ね。り。の。形。り。う。さ。い。と。は。い。ぶ。也。い。妻。わ。り。て。と。髪。の。後。白  
毛。伊。加。保。の。居。り。を。さ。う。は。と。い。い。は。い。ぬ。さ。う。と。さ。れ。ど。も。さ  
の。親。の。い。ら。ぬ。ら。さ。い。と。の。う。人。彼。娘。也。や。さ。る。た。よ。り。の。い。ま。ぶ  
え。あ。わ。れ。い。わ。り。う。か。り。う。と。家。立。て。一。災。た。れ。い。二。災。あ。り。

うやに... 根をさ... かり... 衆神の... くり... いか... 彼お... 息... 板... たり...

空... 二... 呼... たる... 激... 二... 人を...



己が名狐果の五條よりと。意を杖の舞歌が。曉乃仰く言ふれ  
ば。昨日病おし客の。今夕吾わしれ酒中と貴人定まれば命  
ハ石の穴より多くて。吸心。鶴牛の壁の角を穿て。同もわは。鬼  
と呼ばし。指さし。まうその合れ。大豆。狐。管。で。穴。へ。蛇。の。脚。  
ゆえ。一。男。も。口。扱。の。葉。ぞ。ん。く。は。ま。の。水。と。吾。わ。び。ぶ。ぶ。ん  
と。ま。つ。れ。精。を。自。せ。か。く。老。を。の。い。も。早。九。の。舞。始。と。そ  
ゆる。唐。れ。者。が。善。言。ま。と。は。と。同。が。か。ま。り。る。ま。ゆ。る。は。ど。あ  
町の雷老婆の。幸。中。同。と。ん。れ。づ。づ。と。梅。の。み。ま。と。ま。ま。ま。  
事。ぞ。し。か。が。く。果。れ。世。づ。づ。お。き。飛。を。ゆ。ゆ。く。何。あ。ら。ん  
と。は。少。お。の。を。狐。か。し。り。ま。る。身。ん。は。指。も。口。扱。中。さ。れ。た。末

木のひぶが。多うふふすんらわのび。中うぞれ。よ。柳。が。ま。い。そ。が。れ  
ど。な。れ。ま。ま。う。ね。程。さ。び。有。ん。ま。う。せ。て。は。な。い。ん。人。ま。う。は  
り。ど。身。の。お。お。れ。る。の。ま。い。ら。う。せ。り。

ま。小。雨。夏。ゆ。う。う。ら。れ。秋。い。ら。り

世の中うて我をい合とん

知恩院の。場。茶。り。下。河。原。安。井。の。内。八。板。中。ま。の。地。ま。乃  
を。お。ま。り。そ。人。を。呼。ば。れ。招。が。れ。も。の。け。う。う。お。ひ。う。て。本。座。つ。さ  
ぐ。一。た。い。ぬ。水。車。れ。清。ま。に。な。う。て。我。一。と。幕。打。ま。い。糖。ま  
り。へ。幕。し。り。幕。壇。より。種。山。先。を。か。い。の。推。投。て。可。も。ま。は  
ね。ど。ま。の。あ。さ。に。本。座。ま。ま。ま。を。投。く。り。ゆ。種。の。り。う。ら

風よるびくいの霧ざるれぬとほまればりく地よるびくいのせり  
ざるれ雷のちの舟のそまると多し煙く下業露の香も羽の  
うらひとと静極よ深極と。三弦乃御頻伽乃おをを。今一  
度とまをを。あけこの天物多し。魂を宿るを。奥の途  
て行人無はとて帰るあり。胸の明て宛瀾からり。いひ。指  
ももいづろ。そま。被るく。幼稚めける。ね。どしが。つ。この。世  
ま。い。げ。し。う。が。れ。出。處。い。ろ。う。ね。は。法。会。を。野。足。か。く。と。あ。う。  
ハ文字のせの歩のま。たすの。もと。つ。て。尺。の。麻。と。求。ひ。く。が  
ま。眼。う。れ。る。あ。て。ら。う。ね。ぬ。み。く。あ。う。ろ。う。づ。公。れ。た。う。の。ひ。ら。と  
街。道。よ。ま。い。常。精。を。で。る。急。付。一。角。豆腐。ま。い。し。白。人。連

つる坊を振袖し。袷袢をけ。は丘尼。衣をそ。白粉し。る  
ほ家鏡を。わく。伴と。冷鬼。尾と。陰。て。は。を。賣。娘。も。現  
か。う。ろ。と。ビ。ド。ロ。か。い。た。大。は。鏡。を。せ。で。ろ。う。か。う。た。花。の  
梢。瓜。う。う。さ。け。て。伴。麻。呂。が。う。れ。客。人。の。慥。よ。詩。は。う。ろ。と。お  
ん。く。扇。子。の。腮。と。も。せ。て。是。別。風。を。う。た。い。づ。ま。新。く。と  
さ。ら。う。の。道。く。に。堪。る。は。お。よ。觸。境。よ。射。し。一。首。一。條。し  
き。く。み。な。る。ん。ま。き。答。か。り。お。う。げ。ら。う。ら。う。と。い。け。ぬ。白。作。乃  
連。誹。た。う。う。か。ぞ。と。傍。の。情。な。う。い。ひ。人。の。常。か。り。え。よ。は  
ぬ。が。い。は。ほ。そ。り。て。鉄。口。乃。嘘。け。ん。と。と。後。る。う。づ。か。し。ま。ま  
ら。て。夏。ま。ん。く。う。衣。を。と。て。土。用。内。か。う。た。う。こ。四。葉。の



夕涼も矮屋乃炎天岳うづら流とい。暮夜宵を金のひ  
くういけり。さうくや奇案なるの船作り。四角  
は氣の無と。たどけんうられゆ。船お。和之の氣と。ふんと  
して。と。糸繩も。ふ川よ。お。日。毎。う。わ。く。わ。ん。ご。ん。い。穿。る。堂。の  
ま。ら。ま。か。ら。あ。う。う。東。山。南。夜。の。西。洋。と。れ。や。こ。の。物。も。う。る  
と。白。冊。命。ね。ま。る。は。り。ま。格。乃。と。中。岳。の。皮。尾。う。か。ま。  
後。の。用。を。火。の。用。か。そ。れ。より。物。の。あ。づ。り。た。り。ゆ。り。あ。げ。香。あ。げ  
何。中。の。事。仙。世。金。と。ま。ま。く。遊。け。と。性。自。と。け。し。て。呼  
り。ご。さ。ら。水。葉。金。乃。娘。を。完。の。わ。か。ど。か。ら。う。く。み。か。は。は  
掃。出。と。お。し。い。は。は。後。義。と。服。一。盃。ま。て。後。中。う。ぬ。耳。盗。人

もあり。雲のさうらいたい。な。な。が。持。り。ご。よ。い。い。の。戸。無。清。が。あ  
玉。の。伴。と。ま。る。梅。春。鼻。に。踏。ま。と。ま。る。男。う。ま。だ。乃。か。ど  
ま。ま。ん。舌。教。お。ぬ。僕。お。れ。い。た。火。徳。香。う。ら。ん。ま。あ。ま。る。小。は。ゆ。に  
ご。ん。と。あ。り。ま。る。物。ま。ら。似。活。と。突。お。と。と。ま。る。子。ま。る。万。利。通。教  
さ。り。だ。唯。そ。と。い。ご。瓜。の。皮。ら。う。か。み。び。り。ご。と。あ。せ。た。同。い。い。ん。ね  
と。風。乃。香。さ。の。の。り。給。今。相。ぬ。の。こ。一。守。が。二。守。の。は。う。く。ぬ。  
ハ。ま。り。ま。れ。菊。合。信。後。は。は。り。色。好。教。よ。つ。ま。あ。ら。ん。水。叶。の  
か。茶。考。と。瑞。を。競。い。葩。と。わ。く。ま。る。鼻。穴。て。席。に。尻。の。は  
う。ぬ。い。今。日。乃。花。軍。れ。魁。人。と。う。く。取。と。か。さ。う。け。て。縁。よ。た。ど  
こ。吾。の。い。跡。扁。の。一。乃。守。と。推。ま。さ。う。の。舞。姫。が。名。官。候

う。けいあつきて裳まで。悲しい通路わけがのや。と輪川  
清嶽の尾上。以柿の枝神もあゆ。白いとこしあ妻  
籠や。意喚ひく。押く。みでれそあひ。小出ゆり乃先  
ハ文字。かの園守もろけ。羞。縁。より。秋。別。ね。名。い。ろ。あ  
乃ねく。に。ま。と。万。葉。百。年。れ。枝。口。紅。花。の。さ。く。と。く。徳。の  
あ。あ。ぬ。天。し。女。風。を。こ。ら。よ。羽。の。と。ひ。り。り。と。人。喚。玉。牡。丹。  
朱。も。朽。葉。も。あ。ゆ。あ。ゆ。う。ら。み。色。よ。を。菊。の。な。ま。う。た。れ。も  
あ。あ。あ。あ。わ。か。く。て。う。ら。ね。も。新。也。竹。を。と。れ。花。僧。の。昔。と  
縁。清。也。ね。も。あ。ぬ。れ。と。ば。杖。し。う。ら。教。紅。葉。う。ら。う。う。と。  
志。げ。い。ま。瓜。あ。う。る。と。う。う。う。雅。の。楓。を。は。り。う。い。無。風。う。り

く。る。風。京。と。川。の。う。も。ぐ。なる。鳥。の。あ。も。も。あ。と。う。ふ。ゆ。ま。を  
稀。され。ば。寂。し。さ。瓜。を。の。む。ゆ。う。い。室。ほ。ぞ。宿。い。は。む。む  
び。き。は。く。桂。の。尾。梅。は。尾。も。二。度。う。う。舎。々。寺。の。う。ら。  
す。れ。う。う。う。う。空。瓜。観。ど。て。様。土。を。い。ま。は。は。い。な。ん。り。  
ま。づ。生。身。を。あ。と。けて。せ。佛。身。と。ば。祈。ぶ。ぐ。な。れ。と。東。よ  
む。う。う。東。福。も。今。り。も。開。ふ。と。と。そ。教。の。幕。か。と。先。人  
物。う。う。桂。教。多。く。わ。り。を。う。ら。は。上。戸。は。ま。と。あ。ぐ。て。や。ま。れ。ば。  
下。戸。も。林。間。の。紅。葉。瓜。焼。て。茶。瓜。あ。と。め。ざ。り。ん。中。で。縁。乃  
若。と。拂。いて。る。う。腰。う。け。通。天。の。橙。干。より。空。瓜。の。ぞ。け  
は。天。の。魚。う。毛。纏。う。ち。あ。ぬ。う。ま。き。夕。日。ま。ま。と。ゆ。た。う。腹

病中も志づいにはやくとてしげ里のたぐと業が。あ  
んどんい星よりぞめづまわらん。そのむいさかざり風流  
をほくくろ男女も。何れもく膝ぬい肌り。破る風乃。  
時くそよぐゆかや。あそりしまのまぢひはゆぐくもほし。あ  
念佛がまのほのゆづるふけて。呼り細り人の泪より  
かど。業く年々人同くかたしとつ。その内よかくうら  
けぞまぶらま。びまらる海むのさかあざり人びの業と  
又びして業の下屋は独住や。んびの業とゆめく。此  
人乃。けいひのまらまれば。たまも。あてや。あま乃。燦とや  
流人。出る島。阿々として。入島。呼くとそりうく。い。金銀

珠も何ぞん。妻子眷属もなう。さうだ。只。只。子。女。も  
肉けめづつて。は。あ。の。と。あ。び。る。た。日。花。と。た。ら。あ。り。ふ  
まう。せ。少。の。お。あ。り。て。一。盃。乃。所。よ。す。か。れ。業。く。は。ま。  
汲く。と。る。世。智。弁。と。つ。と。れ。業。て。一。年。に。四。度。い。そ。あ。の。枝  
う。天。命。と。け。い。せ。石。星。の。た。い。橋。の。裏。れ。と。川。よ。い。あ。び。を  
る。もの。泉。い。業。中。の。た。地。ち。う。づ。う。だ。ま。づ。う。る。る。た。ま。ま。  
め。枝。折。人。と。と。ら。め。い。け。う。か。ら。ら。あ。ま。い。を。と。め。て。覗。く  
人。を。精。こ。と。ま。て。い。や。ぶ。さ。う。か。づ。や。天。王。乃。削。た。せ。子  
業。答。よ。造。化。乃。漆。如。や。る。活。活。柳。い。み。ど。う。た。い。く。れ。ま。わ。  
不。愛。ま。た。め。の。は。ま。い。や。め。か。か。あ。ぞ。ら。し。け。く。く。ぞ。枝。舟。を。枝

ど菊ぞをそこのふしう。枝とら根とゆづりて。ねい候を  
そのひい。おんれかこまのそこのそらたる。あづり。まけて  
菊の乃席とつるふ。ななく枝ととやうにせで。籠一  
切せらる。い。美女乃獄門とら。ゆづり。道代候を  
さるる。あづり。さる。あづり。月と。水と。入。樹と。まけて。さる  
あづり。やうい。風和の情。よ。なづり。古。望の。樂。と。あづり  
はあづり

